

様式第7（第9条関係）

特定施設使用届出書
悪質下水排出施設使用届出書

年 月 日

公共下水道管理者
多賀町長 久保 久良 様

届出者
住所
電話

氏名又は名称及び法人にあってはその代表者の氏名

(印)

{ 下水道法第12条の3第2項（下水道法第25条の30第1項において準用する同法第12条の3第2項）
下水道法第12条の3第3項（下水道法第25条の30第1項において準用する同法第12条の3第3項） }
の規定により（規定に準じ）、特定施設（悪質下水排出施設）について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称		※整理番号	
工場又は事業場の所在地		※受理年月日	年 月 日
特定施設等の種類		※施設番号	
△特定施設の構造	別紙のとおり（1）	※審査結果	
△特定施設の使用方法	別紙のとおり（2）	※備考	
△汚水の処理の方法	別紙のとおり（3）		
△下水の量及び水質	別紙のとおり（3）（4）		
△用水及び排水の系投	別紙のとおり		

- 備考
1. 申請書の氏名（法人にあってはその代表者の氏名）の記載を自著で行う場合においては、押印を省略することができる。
 2. △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、図面、表等を利用すること。
 3. ※印の欄には、記載しないこと。
 4. 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

別紙1 (1)

特定施設等の構造

特 定 施 設 等 の 構 造	施設①			能力②	数量③	備考④
	番号	記号	名称			
上記特定施設等に係る工事着手予定年月日				年	月	日
工事完成予定年月日				年	月	日
上記特定施設等の使用開始予定年月日				年	月	日

①当該工場に設置されているすべての特定施設等の番号、記号、名称を記載。

②施設ごとの公称能力を記載。

③同一能力の施設がある場合は、その数を記載。

④備考欄は、参考事項、または当該施設が多目的に使用される場合には、その旨を記載。

⑤既設の施設も記載し、新設のものと区別できるように、変更前、変更後と備考に記載。

⑥施設を廃止する場合は、「廃止届」が必要。

(2) 特定施設等の使用方法

特 定 施 設 等 の 使 用 方 法	番号	記号	年間使用 日数①	原材料（薬品）および 使用量（1日あたり）②	特定施設等 ごとの排水量③	備考④

①一年間に、当該施設を使用する日数を記載。

②各施設で使用される原材料・薬品およびその使用量を記載。使用薬品等は化学名で記載し、商品名等の場合は成分表を添付すること。使用量はkg/日またはg/日で記載。

③施設ごとにその排水量に日平均値を記載。なお、排水量の単位は最小限0.1とし、それ以下は切り捨てること。

④施設を特異的に使用する場合（水の循環使用、施設の交互使用あるいは施設の季節的運転等）には備考欄にその旨記載。

別紙2 (3)

汚水等の処理の方法	排水口名①						
	除害施設名②						
	処理能力 (m ³ /日) ③						
	使用薬品名および 使用量 (kg/日) ④	使用薬品名	使用量	使用薬品名	使用量	使用薬品名	使用量
	稼働時間 (h/日) ⑤						
	処理施設の効果⑥	処理前	処理後	処理前	処理後	処理前	処理後
p h B O D C O D S S 油分 T-N T-P							
排水の汚染状況および量	排出量 (m ³ /日) ⑦						
	p h B O D C O D S S 油分 T-N T-P						

- ①公共ますの名称又は工場で通常使用している名称を記載。雨水のみを排出している排出口も含む。
- ②公共ますごとに設置されている除害施設の名称を記載。複数設置時は併記すること。
- ③除害施設ごとに設計仕様書に記載している処理能力を記載。油水分離槽、沈殿槽の場合は容積を。
- ④汚水等を処理する時に使用するすべての薬品の名称および一日当たりの使用量を記載。
- ⑤除害施設の一日当たりの稼働時間を記載。24時間稼働でないときは、開始、終了時間を記載。
- ⑥除害施設に導入される水質と処理されて排出される水質との比較を記載。効果導入の見込める項目
- ⑦公共ます毎に平均排水量を記載。雨水のみの場合は排水量に含まれないので「0」と記載。
- ⑧公共ます毎に排水に係る水質項目の濃度を記載。可能な限り多くの項目について記載すること。また、担保する分析データまたは設計仕様を添付のこと。最大値を () で記入すること。

別紙3 (4)

用途別用排水量 (日当たり)			
用途	用水量 (m ³ /日)	公共用水域排出量 (m ³ /日)	下水道排出量 (m ³ /日)
1. ボイラー用 2. 原材料 3. 製品処理用および洗浄用 4. 冷却用 5. 空調用 6. その他 (飲料用・雑用)			
合計 (最大排水量)			
用水の種類	河川水	m ³ /日	
	工業用水	m ³ /日	
	上水道	m ³ /日	
	地下水	m ³ /日	
	(循環水)	m ³ /日	
	計	m ³ /日	

- ①用途別に用水量、排水量を記載。ただし、用水は新水として必要とする量で循環水は含まない。
- ②ボイラー関係に使用されている用水量とドレン等の排水量を記載。
- ③使用する水がそのまま製品となる場合のみ記入。
- ④製造工程で使用される水量を記入。
- ⑤ボイラー用を除く冷暖房用の用水量および排水量を記入。
- ⑥循環水は、循環ポンプ等の能力と稼働時間で水量を記入。
- ⑦用水の合計と用水の種類別の計は一致。
- ⑧排水量の合計は、別紙2の排水量の合計と一致。
- ⑨ () 書きで最大排水量を記入。

(5)

	種 類	生成量 (月当たり)	処 理 の 方 法
汚水等の処理によって生じる残さ			

- ①別紙2に記載された除害施設による汚泥をその種類別に記載。
- ②脱水処理前の生汚泥の発生量を記入。
- ③脱水機の名称、脱水後の汚泥量、含水率、収集運搬業者、処分者等を記載。